

第3期中期計画

平成22年度～平成24年度



兵庫県立大学

目 次

はじめに.....	1
基本目標.....	1
目指す大学像.....	1
1 教育の一層の充実・強化	
（1）教育体制・教育課程の充実強化.....	2
（2）学生の受入.....	3
（3）全学共通教育の充実.....	4
（4）社会ニーズに対応した専門教育の展開.....	6
（5）学生の支援.....	9
（6）学術情報環境の充実.....	11
（7）積極的な大学教育改革の推進.....	12
（8）教育の成果.....	13
（9）中高大連携教育の実施.....	14
2 研究のさらなる発展・高度化	
（1）研究体制の充実強化.....	14
（2）新たな研究拠点の整備・充実.....	15
（3）研究の高度化・重点化.....	16
（4）共同研究の推進と外部研究資金の確保.....	17
（5）研究支援.....	18
（6）研究成果の公表と社会への還元.....	19
3 社会貢献の積極的な展開	
（1）地域社会との交流・連携.....	19
（2）生涯学習の支援.....	21
（3）地域産業との交流・連携.....	22
（4）国際交流の推進.....	23
4 自主的・自律的な管理運営体制の確立	
（1）戦略的・機動的な大学運営の推進.....	24
（2）教育研究環境の整備.....	26
（3）柔軟で多様な教員人事制度の構築.....	28
（4）事務組織の機能強化と業務の効率化.....	29
（5）点検・評価と情報公開.....	30

はじめに

兵庫県立大学は平成16年4月の設立以来、第1期中期計画(平成16~18年度)において基礎固めを、第2期中期計画(平成19~21年度)においては総合大学としての新たな取組を展開してきた。

本計画では、第2期中期計画の点検・評価や社会のニーズを踏まえ、各学部・研究科等が強みを活かし個性化・特色化を図るとともに、教育・研究・社会貢献の各分野において自律的かつ効率的に大学運営を展開し、学生や地域にとって魅力ある大学づくりを目指した方策を推進するため、平成22年度から平成24年度の3力年に取り組みべき具体的な計画を策定する。

基本目標

統合による相乗効果と総合大学のもつ利点・特徴を最大限に生かし、異分野間の融合を重視した教育と研究を行い、独創的・先駆的な研究を推進して「新しい知の創造」に全力を尽くすとともに、新しい時代の進展に対応し得る確固たる専門能力と幅広い教養とを備えた人間性豊かな人材の育成に努め、地域の発展と我が国の繁栄、ひいては世界・人類の幸せに貢献し得る大学となることを目指す。

目指す大学像

教育の成果を誇り得る人間性豊かな大学

いのちの尊重に根ざした豊かな人間性ととともに、幅広い教養や専門知識・技能を含めた課題探求能力とグローバル・リテラシー(国際対話能力)を備えた、地域や国際社会で活躍できる創造力と自律性を有する人材を育成し、教育の成果を誇り得る大学を目指す。

先導的・独創的な研究を行う個性豊かな大学

兵庫県に存する高度な研究基盤を生かした先導的・創造的な研究を、県内に集積する様々な分野の研究機関等との連携の中で進め、研究成果を広く地域社会や国際社会に還元することを通じて、世界に向けて発信できる独自性の高い研究を行う個性豊かな大学を目指す。

世界に開かれ、地域とともに発展する夢豊かな大学

県民の生涯学習ニーズにこたえ、大学の教育・研究機能を広く開放するなど地域社会の発展に貢献するとともに、県内に集積する科学技術関連機関や企業等とも連携を図りながら、新産業の創造や地域経済の振興に寄与する。更に、教育研究における国際交流を進め世界に向けた学術文化の発信に努め、世界に開かれ、地域とともに発展する大学を目指す。

1 教育の一層の充実・強化

(基本方向)

全学共通教育の一層の充実や社会のニーズに対応した専門教育を実施するとともに、学生が意欲的に学習に取り組めるような教育体制・教育課程の充実強化のため、適正な教員配置等を行うとともに、共通教育の一体化の推進、GPA制度、CAP制度の導入等を行う。

(取組方策)

(1)教育体制・教育課程の充実強化

全学共通教育の充実のための総合教育センターの機能強化(CD1)

総合大学としての特長を生かし、全学共通教育を一層充実するため、総合教育センターの機能を強化し、各部署の積極的な参画の下、「全県キャンパス構想」の推進をはじめ、共通教育のカリキュラム改善、教員相互の評価・助言など、学部間、担当教員間の連携を強化する。

【自己評価指標】全県キャンパス構想の開講科目数、受講者数

社会ニーズに対応した専門教育への適正な教員配置(CD2)

社会ニーズに対応した専門教育を実施するため、教育内容、教員当たり担当科目数・学生数等にも配慮した適正な教員配置を行う。

【自己評価指標】教員当たり担当科目数・学生数

各部署の特性を踏まえた教員組織の見直し(CD3)

教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担と相互の連携体制を確保し、教育研究に係る責任体制が明確になるよう教員組織を編成するため、各部署の目的や特性を踏まえ適宜点検を行い、必要に応じて教員組織の見直しを行う。

T Aの業務内容の整理・充実と適切な活用(CD4)

教育課程を遂行するために必要なティーチングアシスタント(T A)の役割のみならず、T A自身への教育効果も考慮した業務内容の整理を行い、T Aの資質向上を含めたその充実と適切な活用を図る。

ネットワーク化された「教育支援システム」の効率的活用による教育効果の向上(CD5)

ネットワーク化された「教育支援システム」を活用し、学生による履修登録、教員によるシラバス登録、成績入力など、その利用促進を図るとともに、学生情報等の効率的な運用に努め、教育効果の向上に役立てる。

【自己評価指標】シラバスの公開状況

東西共通教育の統一カリキュラム編成等共通教育の一体化の推進(CD6)

東西両地区それぞれの事情や各学部・研究科の特性等を考慮しながら、専門科目と共通教育の関係を見直し、並行カリキュラムを検討するとともに、夏季休業中の統一カリキュラム編成など、東西両地区における共通教育の一体化を進める。

また、全学生に対して共通教育を一箇所で実施することの必要性・実現可能性について、引き続き検討する。

【自己評価指標】夏季休業中の統一カリキュラム（科目）数

総合大学のメリットを生かすための遠隔授業の改善(CD7)

教養科目の選択肢や他専攻科目、教職関連科目等の履修可能範囲の拡大など総合大学の学生としてのメリットを生かすため、キャンパス間で行う「遠隔授業」について、学生の授業評価や担当教員間の意見交換等を通じて授業内容・方法の改善・向上を図る。

【自己評価指標】遠隔授業の開講科目数、遠隔授業の受講者数、遠隔授業システムのトラブル発生件数

教員養成課程の教育内容等の充実(CD8)

大学教育における教員養成課程の重要性を再認識し、学生が教員に求められる資質・能力を確実に身につけるよう、大学全体としての組織的な教育・指導体制を確立し、教職課程における教育内容・方法の充実を図る。

グローバル社会で活躍できる人材育成のための海外留学等の支援体制整備(CD9)

グローバル社会で活躍できる人材を育成するため、協定交流大学との私費留学生に係る単位互換、単位認定制度について検討し、学生が海外留学しやすい環境を整えるほか、海外研修・インターンシップ等の海外体験、国際的な学生会議・セミナー等への参加を支援する体制を整備する。

【自己評価指標】海外留学の状況

基礎学力不足学生に対する補習授業等の配慮(CD10)

総合教育センター及び各学部・研究科は、基礎学力不足の学生に対して、補習授業の開講、能力別講義の実施等の適切な配慮を行う。

【自己評価指標】標準修業年限卒業率（学部）

単位認定等の厳正化、GPA 制度・CAP 制度の導入(CD11)

学生が自らの学習姿勢を確かめつつ緊張感を伴って意欲的に学習に取り組むよう、あらかじめ明示したシラバスや進級・卒業要件に基づき、単位認定及び進級・卒業認定を引き続き厳正に行う。成績評価基準の見直しとともに平成 22 年度から GPA 制度を導入する。また、単位取得数の指針として CAP 制度の導入について検討を行う。

【自己評価指標】G P A、C A P 制度導入学部・研究科数

(2) 学生の受入

(基本方向)

アドミッションポリシーの広報や入試広報の充実、入試選抜制度の検証・改善等により、優秀な学生を確保するとともに、質の高い留学生の確保対策を推進する。また、入試ミス の未然防止に努める。

(取組方策)

アドミッションポリシーの積極的な広報(CD12)

大学の教育理念を踏まえたアドミッションポリシーについて、インターネットの活用、高校訪問やオープンキャンパス等のあらゆる機会を捉えて積極的に広報し、本学の魅力・教育方針に対する理解を得る。

【自己評価指標】競争率（倍率）

優秀な学生確保のための入試広報の充実(CD13)

優秀な学生の確保を図るため、大学本部と各学部・研究科が連携し、ホームページの充実や高校訪問活動のほか、オープンキャンパスや大学説明会、高校進路相談会等を積極的に活用し、入試広報を充実する。

【自己評価指標】各学部高校訪問件数、進路相談会等参加回数、オープンキャンパス参加者数

教育開発センター入試部会による入試選抜制度の検証及び改善等(CD14)

アドミッションポリシーにふさわしい資質を持った学生を受け入れるため、教育開発センターに入試部会を置き、各学部・研究科で実施している一般選抜、推薦入学、AO入試等の入学者選抜制度を検証し、順次その充実・改善を図る。

【自己評価指標】競争率（倍率）

AO入試と推薦入試の差別化等による各種入試定員のバランスの検討(CD15)

AO入試と推薦入試の差別化を行い、それぞれの入試の特色を際立たせるようにし、入学者の追跡調査により各種入試定員のバランスを検討する。

入試ミス未然防止のためのマニュアルの実効性ある運用等(CD16)

入試における様々なミスの未然防止、早期検出、早期対応のためのマニュアルの充実と実効性のある運用など、適切な入学者選抜手続き等について常に改善を図る。

【自己評価指標】入試ミス件数

外国人留学生対象大学セミナー等を活用した質の高い留学生の確保(CD17)

日本学生支援機構が主催する外国人留学生対象の大学セミナーなどを活用して、質の高い留学生の確保に努めるとともに、出身国の多様化を図る。

【自己評価指標】外国人留学生数、外国人留学生出身国数

協定交流大学間の推薦入学制度の推進(CD18)

学位取得を目的とする留学を促進するため、協定交流大学間の推薦入学制度の推進を図る。

(3) 全学共通教育の充実

(基本方向)

コミュニケーション教育の強化を行う。特に、英語教育においては ESP (English for Specific Purposes) の導入を目指すとともに、教育プログラムの再編検討を行う。また、全県キャンパス構想の展開等教養科目を充実させるとともに、他大学との相互単位の共同化を図る。

(取組方策)

グローバルコミュニケーション能力の向上のためのカリキュラム編成の見直し及びコミュニケーション教育の強化(CD19)

グローバルコミュニケーション能力の向上を目的として実施している「英語コミュニケーション科目」及び「情報関連科目」の充実を図るとともに、カリキュラム編成については学部の関与を強め、学部特色化の方向で見直しを図る。

それとともに、学部の状況に応じて、論理的な文章作成、発表、討議能力を高めるための科目を置き、コミュニケーション教育を強化する。

【自己評価指標】グローバルコミュニケーション科目の状況

英語力向上のための少人数教育の徹底、英語教育の客観的評価及びESPの導入(CD20)

学生の英語力を高めるため、できる限り少人数教育を徹底し、関係教員が一層連携することによって、英語コミュニケーション科目のさらなる充実を図る。同時に学部の目的に応じた英語教育を実施し、客観的な評価を受けるものとする。また、それぞれの学部で独自の目標を掲げ、海外大学からの招聘教員を含むESP(English for Specific Purposes)の導入を目指す。

【自己評価指標】学部別TOEIC受験者数・平均点、TOEICを成績評価に取り入れている学部数、英語による授業数

情報科学に関する基礎的な仕組みを理解した学生の育成(CD21)

情報機器を使いこなせるだけでなく、情報科学に関する基礎的な仕組みを理解した学生を育成し、学部で必要な知識を身につけさせる。

英語教育の改善のための教育プログラムの再編検討及び情報教育の再編成の効果調査(CD22)

英語関連教育の一層の改善を図るため、22年度以降に教育プログラムの再編成について検討する。情報教育については、再編成の効果を調査する。

【自己評価指標】再編成後の開講クラス、受講者数

全県キャンパス構想の展開等教養科目の充実及び学生の選択幅を広げるためのカリキュラムの設定(CD23)

学生が幅広い教養や豊かな人間性を養えるよう、教養科目を充実させる。また、「全県キャンパス構想」の展開による新たな科目の開講に努める。さらに遠隔授業の活用や夏季休業中の統一カリキュラムの設定など学生の選択の幅を拡げる。

【自己評価指標】全県キャンパス構想開講科目数、受講者数、夏季休業中の統一カリキュラム(科目)数

課題別教養科目の内容の充実(CD24)

社会における現代的・発展的課題を扱う「課題別教養科目」を開講し、テーマに応じて学外の実践家の活用や少人数の演習を行うなどその内容の充実を図る。

【自己評価指標】課題別教養科目開講数、学外の実践家の活用数

他専攻科目の充実及び履修促進 (CD25)

総合大学としてのメリットを生かし、学生の多様な関心に応えるため、学生が自らの専攻以外の科目を選択して履修する「他専攻科目（専門教育科目等）」の充実及び他学部専門科目の履修促進を図る。また、文系学生に自然科学の特定科目を、自然科学系学生に人文・社会科学の特定科目の開講を検討する。

【自己評価指標】他専攻科目開講数・受講者数

演習・フィールドの場としての附置研究所の活用 (CD26)

総合大学としてのメリットを生かし、演習やフィールドの場として附置研究所を有効活用する。

全人格的教育（リベラルアーツ教育）の充実 (CD27)

将来性が高く、地域・国際社会から要請される人材を育成するため、特に倫理観や人間性も重視した全人格的教育（リベラルアーツ教育）の充実を図る。

スクールバスの運行などの環境整備 (CD28)

学生が共通教育等科目履修を円滑に行うためにスクールバスの運行など環境の整備に努める。

他大学と相互単位認定する教養科目等の共同化 (CD29)

大学共同利用施設（UNITY）等を活用し、他大学と相互単位認定する教養科目等の共同化の充実を図る。

【自己評価指標】相互単位認定科目数

(4) 社会ニーズに対応した専門教育の展開

(基本方向)

学内部局間交流による連携講義や実践・体験型教育等を進めるとともに、学生の主体的な学習を促し、単位の実質化を図る。

また、国際エコノミストコース（仮称）や地域公共政策専攻（仮称）の設置、看護学研究科のコース改編・新設、米国大学とのダブルディグリープログラムの開設、先端計算科学研究科（仮称）の設置等により、社会ニーズに対応した専門教育の展開を図る。

(取組方策)

技術管理を含めた質の高い専門教育の構築 (CD30)

各学部・研究科において、技術管理（マネジメントオブテクノロジー MOT）、サービス管理（マネジメントオブサービス MOS）等を含めた社会的ニーズを踏まえながら、教育内容の改善・充実に取り組み、より質の高い専門教育プログラムの構築を図る。

「学部・大学院一貫コース」の導入の検討 (CD31)

大学院への進学率が高い分野などでは、大学院を含めた体系的な教育カリキュラムを継続的に見直すなど、「学部・大学院一貫コース」の導入を検討する。

学内部局間交流の積極的な促進による連携講義の実施等 (CD32)

学内部局間交流を積極的に促進し、関連部局の相互乗り入れ講義、共同研究成果に基づく連携講義等を行うほか、他学部の授業科目の履修を促す。

【自己評価指標】部局が連携する講義の開講数

地域連携教育やインターンシップ等の実践・体験型教育の積極的な活用 (CD33)

学生が高度な知識を習得するとともに、その応用能力を高めることができるよう、各学部・研究科の特性に応じて地域の自治体や産業界と連携し、地域連携教育やインターンシップ等の実践・体験型教育の積極的な活用を進める。

【自己評価指標】インターンシップの状況

地域の有為な人材を活用した講義・体験学習等を活用した実践的な教育の充実 (CD34)

各学部・研究科は、それぞれがつながりのある分野の産学官との連携を推進し、地域の有為な人材を活用して、専門家を講師とする講義、課題解決型体験学習等のより実践的な教育プログラムの充実を図る。

【自己評価指標】外部の専門家等を講師とする講義数、学部・研究科の連携部門の教員数

各学部・研究科の特性に応じた単位の実質化 (CD35)

各学部・研究科の特性に応じ、学生の主体的な学習を促し、授業時間外の学習のための工夫や組織的な履修指導を行うなど、単位の実質化を図る。

国際的に魅力ある大学院教育を推進するための体系的組織的な教育の実施 (CD36)

国際的に魅力ある大学院教育を推進するため、研究科(又は専攻)ごとに教育研究上の目的を明確にし、これを公表するとともに、各研究科の特性に応じて体系的に教育課程を編成し、組織的な教育を行う。

【自己評価指標】教育研究の目的の公表状況

各学部の特性に応じた法律科目の開講 (CD37)

現代社会における法律知識の必要性の高まりに対応するため、各学部の特性に応じ、関係する法律科目の開講に努めるとともに、全学的な法律学習環境の充実を図る。

【自己評価指標】法律関連科目の開講状況

「国際エコノミストコース(仮称)」の開設(平成23年度)(CD38)

国際的な企業等で活躍する人材を育成するため、英語得点上位者の優先選抜や英語による講義、英語集中トレーニングを実施し、経済学の専門知識はもとより異文化環境の理解と対応力を備えた人材を育成する「国際エコノミストコース(仮称)」を平成23年4月に経済学部に開設する。

【自己評価指標】英語による授業科目数、TOEIC平均点

大学院経済学研究科に「地域公共政策専攻（仮称）」の設置（平成 23 年度）(CD39)

WEB 遠隔授業を導入するなどして、地域に根ざした実践的教育を展開し、公共政策、地域政策に関する先端的・学際的な教育・研究・交流拠点として、大学院経済学研究科に「地域公共政策専攻（仮称）」を平成 23 年 4 月に設置する。

【自己評価指標】入学者数、地域連携による共同研究成果論文数

経営学部と大学院の 5 年一貫教育等による高度専門職業人の育成 (CD40)

経営学部と大学院（経営研究科・会計研究科）との 5 年一貫教育体制を確立するとともに、多様な連携先との協力関係の下に高度専門職業人の育成を図る。

【自己評価指標】各研究科入学者数、学部からの入学者数（内 3 年生入学者数）

大学院看護学研究科のコースの改編・新設 (CD41)

高度化・複雑化する医療に対応するための大学院看護学研究科博士前期課程の「高度実践看護コース」を国際基準に準拠した教育カリキュラムに改編するとともに、マネジメント能力を備えた人材育成を目的とした「看護・保健マネジメントコース（仮称）」を新たに設置する。また、海外からの要請が強い分野においては、博士後期課程の研究コースで留学生の受入体制を検討する。

米国カーネギーメロン大学と大学院応用情報科学研究科との「ダブルディグリープログラム」の開設（平成 23 年度）(CD42)

情報セキュリティを含む社会情報システムの安全性、信頼性などに関する教育の充実を図るため、高信頼情報科学コースを設けるとともに、より高度な能力を備えた職業人、研究者を育成するため、米国カーネギーメロン大学（CMU）と大学院応用情報科学研究科との「ダブルディグリープログラム」を平成 23 年度に開設する。

【自己評価指標】コース入学者数、ダブルディグリープログラム受講者数

地域環境マネジメント人材を育成する独立大学院構想の検討 (CD43)

多種多様な分野領域融合を前提として、世界に類例のない日本オリジナルの新たな学問分野・教育体制を創造する、行政連携等の地域環境マネジメントに関わる独立大学院の構想を検討・推進する。

自然・環境科学研究所の大学院機能の拡充や宇宙天文系と連携した専門教育の充実 (CD44)

自然・環境科学研究所の各系を活用した教育研究機能の拡充を図るため、大学院生の受入拡大など大学院機能の強化や宇宙天文系における他部局と連携した専門教育の充実について検討を行う。

【自己評価指標】大学院入学者数、専門教育科目数（宇宙天文系）

次世代スーパーコンピュータを活用した大学院「先端計算科学研究科（仮称）」の開設（平成 23 年度）(CD45)

次世代スーパーコンピュータの神戸への立地にあわせ、計算科学分野における先端的な研究

者・技術者を育成するため、大学院「先端計算科学研究科（仮称）」を平成23年4月に開設する。

【自己評価指標】入学者数

阪神・淡路大震災の経験と教訓を生かした防災等の専門教育の検討(CD46)

阪神・淡路大震災の経験と教訓を生かし、防災や安全・安心な社会システムづくりのための人材を育成するため、新たに専門教育のあり方について検討を行う。

学生のキャリア形成の促進(CD47)

学生自らの能力形成や各種資格取得への取組に対してインセンティブを与えるしくみを検討するなど、学生のキャリア形成を促進する。

【自己評価指標】キャリア形成関連が「タ」の実施状況

成績評価等の正確さを担保する仕組みの検討(CD48)

成績評価基準の厳格化、公平性の確保、学生への評価基準の周知、模範解答の公表、答案の返却、不服申立制度等、成績評価等の正確さを担保する仕組みの向上について検討する。

【自己評価指標】成績評価基準の策定状況

(5) 学生の支援

(基本方向)

学生との面談やオフィスアワーの充実、さらに基礎ゼミナールや学生担任教員制度を強化するとともに、カウンセリング体制の確保やハラスメント防止意識を一層徹底するなど、きめ細やかで責任のある学生生活支援を行う。また、「就職支援センター（仮称）」の設置や卒業生とのネットワーク構築の検討を行う。

(取組方策)

「学生生活実態調査」の定期的実施及び事務部と教員が密接に連携した学生指導・支援(CD49)

全学生を対象とする「学生生活実態調査」を引き続き定期的実施し、学生ニーズ等の把握に努めるとともに、社会情勢や他大学の状況等も踏まえ、事務部と教員が密接に連携し、充実した学生指導・支援を行う。

【自己評価指標】学生生活実態調査実施回数・回収率

各キャンパスでのきめ細かく、責任ある学生生活支援(CD50)

学生部長を補佐する学生副部長及び各学部にある学部学生部長による密接な連携の下、各キャンパスにおけるきめ細かく、かつ責任ある学生生活支援を行う。

学生との面談やオフィスアワーの充実(CD51)

きめ細やかな履修指導や進路相談等学生に対する助言・指導を充実するため、学生との面談時間の拡大に努めるとともに、オフィスアワーの充実を図る。

【自己評価指標】オフィスアワーの実施状況

基礎ゼミナールや学生担任教員制度の強化(CD52)

学生の適性に対応した的確な初年次教育と進路指導を行うため、各学部・研究科の実績に応じて、「基礎ゼミナール(1年生に対する少人数教育・指導)」の強化や学生担任教員制度の強化を図る。

【自己評価指標】担任教員制度等の実施状況

学生の心身の健康相談の充実のための専門家によるカウンセリング体制の確保(CD53)

学生の心身の健康相談を充実するため、専門家によるカウンセリング体制を確保するとともに、保健師(看護師)及びカウンセラーと学生副部長及び学部学生部長等が密接な連携を図り、適切な学生対応を行う。また、保健師連絡会議の開催によりキャンパス間の連携を図るとともに、学生生活委員会で調整を図りながら全学的な対策を実施する。

【自己評価指標】カウンセラーの派遣日数・受診件数

セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメントガイドラインの周知(CD54)

セクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントなど人権侵害防止に関するガイドラインを学生・教職員に周知し、人権侵害防止意識の一層の徹底を図る。

【自己評価指標】ガイドラインを知っている学生割合

特別な支援を必要とする学生に対する適切な対応(CD55)

留学生、社会人学生、障害のある学生等、特別な支援を必要とする学生に対し適切な対応を行うため、対象となる学生およびニーズ等の把握に努めるとともに、それら学生に対する支援が適切に行われているか等を分析し、不十分なものについては対応を検討していく。

教職員が連携した学生の生活相談(CD56)

各キャンパスの実情に応じて、教職員が密接に連携し、学生の生活相談に対応する。

【自己評価指標】生活相談件数

奨学金情報の周知及び新たな奨学金制度の開拓(CD57)

奨学金情報を組織的に収集し、インターネットの活用等効果的に学生に周知するとともに、新たな奨学金制度の開拓に努める。

【自己評価指標】民間奨学金募集团体数、奨学金受給者数

経済的支援を要する学生に対する経済支援措置や成績優秀学生へのインセンティブの検討(CD58)

成績優秀かつ経済的支援を要する学生に対して、授業料免除制度を活用・充実するなど、適切な経済支援措置を講じるほか、成績優秀な学生のインセンティブを高めるための方策を検討する。

【自己評価指標】授業料免除の状況

プロ意識の醸成と経済的支援を行うための「リサーチアシスタント制度」の導入(CD59)

研究者となる意欲と能力を有する大学院博士後期課程在籍学生に対して、研究活動補助を通じたプロ意識の醸成と経済的支援を行うため、「リサーチアシスタント（RA）制度」の導入に努める。

【自己評価指標】リサーチアシスタント制度の状況、RA数

「就職支援センター（仮称）」設置の検討(CD60)

就職情報の収集・提供、個別相談、ガイダンスの開催など、学生の就職活動への支援、関連する産業界への教育理念等の発信など、全学的に対応するため「就職支援センター（仮称）」の設置を検討する。

【自己評価指標】キャリアデザインガイダンスの実施状況

人的ネットワークの共有、同窓会との連携等、学生の多様な進路選択の仕組みの構築(CD61)

これまで蓄積してきた就職関連情報や人的ネットワークを学内で共有し、同窓会等との連携による就職支援、社会で活躍する卒業生との交流機会の提供等、本学の学生が多様な進路を選択できる仕組みを構築する。

クラブ活動や統一大学祭への協力等交流環境の整備(CD62)

学生が他キャンパスの学生との交流を深めることができるよう、学生自治会や後援会等と連携を図りながら、クラブ活動や統一大学祭への協力、スクールバスの運行など交流環境の整備に努める。

【自己評価指標】合同活動を行うクラブ等数

生活協同組合の円滑な運営等についての協力と支援(CD63)

学生等の勉学、日常生活、就職活動等を支援する生活協同組合の円滑な運営について、必要な協力と支援を行うとともに、事業レベルでの連携・協力関係を強化する。

学生寮の快適な生活環境の確保(CD64)

学生寮に入居している学生の快適な生活環境を確保するため、学生寮施設の適切な維持管理や各種福利厚生施設の充実に努める。また、安全確保の点から防災施設管理の徹底を図るため、学生自身による自治会活動を活性化し、自立的な防犯活動や自衛消防活動を強化する。

【自己評価指標】自主的防犯活動等実績

卒業者データベースの整備(CD65)

学生が卒業後も大学との継続的な交流を可能とするため、平成24年度までに卒業者データベースの整備と大学情報の提供などネットワークの構築を図る。

(6) 学術情報環境の充実

(基本方向)

学術情報館の利用時間の延長や電子ジャーナル等のコンテンツの充実を行い、利用者の利便性を図るとともに、計画的な教育研究資料整備やネットワークの再整備を行う。

(取組方策)

学術総合情報センターによる計画的な教育研究資料の整備やネットワークの再整備 (CD66)

「学術総合情報センター」が中心となり、計画的に教育研究資料の整備・保存・活用、自習環境の充実、情報処理教育の推進を図るほか、ネットワークの再整備と安定稼働を図る。

【自己評価指標】学生1人当たりPC設置台数、全学の蔵書数(図書冊数、雑誌タイトル数)

電子ジャーナル等コンテンツの充実(CD67)

外国雑誌の購入形態が電子化へと大きくシフトする中、価格上昇への対応や、タイトル選定の仕組みづくりを工夫しつつ電子ジャーナル等コンテンツの充実を図る。

【自己評価指標】電子ジャーナル導入タイトル数

学術情報館の利用時間の延長など利用者の利便性の向上(CD68)

学術情報の利用に関するガイダンスを充実するとともに、学術情報館の利用時間の延長など利用者の利便性の向上を図る。

【自己評価指標】学術情報館利用者数(入館者数、貸出冊数)、開館時間延長の状況
説明会・講習会の参加者数

各地区学術情報館の整備・充実(CD69)

全学的かつ効率的な図書管理を行うとともに、各地区の専門分野に応じた特色ある情報拠点として各地区学術情報館の整備・充実を図る。

【自己評価指標】専門図書蔵書数、教育用図書蔵書数

(7)積極的な大学教育改革の推進

(基本方向)

教育活動に関する定期的な自己点検・評価を行うとともに、「学生による授業評価」等による教育方法の改善を行う。また、全学的なFD(Faculty Development)の推進を図るとともに、先進的な教育改革プログラム等の開発・改善を進める。

(取組方策)

教育活動状況に関する定期的な自己点検・評価(CD70)

教育活動の実態を示すデータ・資料(学生の単位取得状況、シラバス、授業評価結果等)を収集・蓄積するとともに、学生や学外関係者の意見等も反映しながら、教育の状況に関する定期的な自己点検・評価を行う。

「学生による授業評価」による教育方法の改善(CD71)

全講義を対象とした「学生による授業評価」において、授業内容、授業方法、学生の自己評価などのアンケートを実施し、その結果を各教員に通知することで、講義内容や教育方法の改善につなげる。また、アンケート集計結果を学内で共有し教育改革に反映させる。

【自己評価指標】授業評価アンケート実施回数・回収率

学生と部局長等との懇談会の開催(CD72)

学生の意思等を教育改革の参考等とするため、学生と部局長等との懇談会を開催する。

【自己評価指標】懇談会実施回数・参加者数

授業内容、教育方法の継続的改善、教育技術の向上(CD73)

教育の状況に関する自己点検・自己評価の結果に基づき、教育開発センター及び各学部・研究科は教育課程の見直し等を常に検討するとともに、各教員は授業内容、教育方法の継続的改善、教育技術の向上に努める。

【自己評価指標】授業評価アンケートの授業理解度（身に付いたかという設問）

全学的なF Dの推進(CD74)

「教育開発センター」が中心となり、教育方法の改善を目的とした授業改善懇談会、教員相互授業参観、教員研修会等を企画・開催する。また、F D推進月間等の導入を検討し、全学的なF D（Faculty Development）の推進を図る。

【自己評価指標】教員研修会開催回数・参加者数、授業参観参加者数

各学部・研究科における専門教育を教授する教員の能力・資質の維持向上(CD75)

各学部・研究科は、教員研修等の機会を積極的に設けるなど、それぞれの専門教育を教授する教員の能力・資質の維持向上を図るための措置を講じる。

【自己評価指標】教員研修会等への参加教員数

各教員の研究活動や研究業績等の明確化(CD76)

教育の目的を達成するための基礎として、各教員は教育内容等と関連する研究活動を行い、その研究活動や研究業績等を明らかにする。

文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」等への積極的な応募・活用(CD77)

先進的な教育改革プログラムの開発・改善を進めるとともに、各種審議会からの提言や社会的要請の強い政策課題に対応した教育プログラムの開発に取り組み、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」等に積極的に応募・活用する。

【自己評価指標】文部科学省「大学教育・学生支援推進事業等」の採択件数

「副専攻選択制度（仮称）」の創設の検討(CD78)

各学部・研究科の特色に応じ、適切な履修モデルを示すことにより、学生が専攻以外の分野について、副専攻として系統的に履修することが可能となる「副専攻選択制度（仮称）」の創設を引き続き検討する。

ダブルディグリー制度等の導入検討(CD79)

各学部・研究科の特色に応じ、ダブルディグリー制度等、複数の学位を与えることのできる制度の導入を検討する。

(8) 教育の成果

(基本方向)

各学部・研究科の特性に応じて、外部の教育課程認定制度を活用する等、教育の成果について検証・評価を行う。

(取組方策)

教育の成果についての検証・評価(CD80)

各学部・研究科は、学生が身に付ける学力、資質、能力や養成しようとする人材像についての方針を明らかにするとともに、単位修得状況、学生による評価、卒業(修了)後の進路の状況等、教育の成果について引き続き検証・評価する。

J A B E E 等外部教育課程認定制度を活用した教育成果の検証(CD81)

各学部・研究科の特性に応じて、J A B E E (日本技術者教育認定機構)による日本技術者教育認定など、外部の教育課程認定制度を活用し、教育成果の検証を行う。

(9) 中高大連携教育の実施

(基本方向)

附属中学の検証を行うとともに、附属中学・高校による中高一貫教育校として、計画的・継続的な教育活動の展開を図る。また、理数教育プログラムの一層の充実を図る。

(取組方策)

附属中学・附属高校による6年間の計画的・継続的な教育活動の展開(CD82)

附属中学・附属高校による中高一貫教育校として、6年間の計画的・継続的な教育活動を展開し、大学の各学部、附置研究所等との連携・協力関係の強化を図りつつ、生徒の個性や才能を伸ばし、高等教育への接続を図る。また、完成年次を迎えた附属中学校の検証を行うとともに、今後のあり方について検討を行う。

【自己評価指標】大学と連携した授業の回数、特別推薦入学者数

中高6年間の理数教育プログラムの一層の充実(CD83)

スーパーサイエンスハイスクール事業の成果を生かし、中高一貫教育校として、中学生・高校生の科学への関心を高め、中高6年間の理数教育プログラムの一層の充実を図る。

【自己評価指標】附属中学・高校の競争率(倍率)

2 研究のさらなる発展・高度化

(1) 研究体制の充実強化

(基本方向)

総合大学の特色を生かし、基礎研究から応用研究まで対応できる体制を展開するとともに、部局を越えた幅広い共同研究を推進する。さらに、他の大学や研究機関との連携による研究成果の地域への還元、インキュベーションセンターの活用による共同研究の推進等、研究体制の充実強化を行う。

(取組方策)

基礎研究から応用研究まで対応できる体制の展開(CD84)

総合大学としての特色、各研究分野の個性を生かし、保持している多様な研究資源を効果的に活用しつつ、基礎研究から応用研究まで対応できる体制を展開する。

他大学やSpring-8等との連携による最先端の知識や技術の蓄積と地域への還元(CD85)

他大学やSpring-8、次世代スーパーコンピュータ、WHO神戸センターなど県内の研究機関等との連携を行い、最先端の知識や技術の蓄積と地域への還元を図る。

【自己評価指標】県内研究機関等との共同研究・受託研究件数

計算科学分野における人材育成や共同研究等を行う大学連携拠点の形成(CD86)

計算科学分野における国内外の大学や研究機関等と協力を図りつつ、人材育成や共同研究等を行う大学連携拠点の形成を目指す。

【自己評価指標】連携する大学・研究機関数

研究成果の共有と部局を越えた幅広い共同研究の推進(CD87)

各研究分野の個性と多様な研究資源を効果的に活用しつつ、研究成果の共有と部局を越えた研究者のつながりを強化し、幅広い共同研究を推進する。

【自己評価指標】共同研究件数

産学官共同研究の中核拠点としての機能の充実及びインキュベーションセンターの活用による共同研究の推進(CD88)

各部局においては、それぞれの領域における産学官共同研究の中核拠点としての機能の一層の充実を図る。特に工学研究科等においては、姫路書写キャンパスに整備したインキュベーションセンターの活用等により、新規起業につながるような共同研究を推進する。

【自己評価指標】インキュベーションセンター利用状況

外部評価や自己点検・評価による研究の質の向上(CD89)

各分野の研究に関する外部評価や自己点検・評価等により研究活動の状況を検証し、その質の向上・改善を図る。

研究推進に関する施策の企画・立案等を行う体制の整備(CD90)

重点研究分野の設定、学際研究プロジェクトの促進、萌芽的研究の支援など、大学としての研究推進に関する施策の企画・立案等を行う体制の整備を図る。

(2)新たな研究拠点の整備・充実

(基本方向)

「ピコバイオロジー研究所」の充実を図るとともに、「ナノマイクロ構造科学研究センター(仮称)」の開設や経済経営研究所の「政策科学研究所(仮称)」への改組等、新たな研

究拠点の整備充実を行う。

(取組方策)

「ピコバイオロジー研究所」の充実強化(CD91)

グローバル COE プログラムの採択を受けたピコバイオロジーに係る世界最高水準の研究拠点である「ピコバイオロジー研究所」の充実強化を図る。

「ナノ・マイクロ構造科学研究センター（仮称）」の創設（平成 23 年度）(CD92)

世界最高レベルの超微細加工技術の高度化と革新的な応用研究開発を推進するため、次世代スーパーコンピュータ及び SPring-8、X線自由電子レーザー（XFEL）施設の活用、東北大学との大学連携を積極的に取り入れ、大学院工学研究科に「ナノ・マイクロ構造科学研究センター（仮称）」を平成 23 年度に創設する。

「社会応用情報科学研究センター（仮称）」の開設(CD93)

応用情報科学研究科が推進してきた「産学連携による実践型人材育成事業（文部科学省）」の成果を継承・発展させ、情報科学技術の社会応用における高度人材育成や研究成果の社会への還元を行うため、「社会応用情報科学研究センター（仮称）」を平成 22 年度に開設する。

経済経営研究所の「政策科学研究所（仮称）」への改組（平成 22 年度）(CD94)

学術研究が中心であった経済経営研究所を改組し、政策提言や産学公民連携による地域貢献等の機能を高めるため、「政策科学研究所（仮称）」を平成 22 年度に設置する。

【自己評価指標】政策連携研究プロジェクト数、政策連携研修実施数

地域ケア開発研究所における「子育て支援」「訪問看護」「遠隔看護」等の新たな分野開発(CD95)

看護学系実践研究所である地域ケア開発研究所は、看護学部等との連携のもとに、「まちの保健室」「国際地域看護」等に取り組んできたが、今後は「子育て支援」「訪問看護」「遠隔看護」などの分野の開発をめざす。

また、看護学研究科と地域ケア開発研究所は、21 世紀 COE プログラムの研究成果を継承、発展させるため、災害看護の世界拠点として「WHO 指定研究協力センター」の体制整備を推進する。

【自己評価指標】「まちの保健室」開催回数

(3) 研究の高度化・重点化

(基本方向)

国際的に卓越した教育研究拠点の形成や学際的研究の推進、コウノトリ野性復帰など兵庫県の特性を踏まえた地域課題に対処する研究を推進するとともに、「バースセンター（仮称）」の設立や総合的な教員評価に基づく研究費の配分制度の検討等、研究の高度化・重点化を図る。

(取組方策)

ポスト・グローバルCOEの採択を視野に入れた国際的に卓越した教育研究拠点への取組推進(CD96)

大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、ポスト・グローバルCOEの採択も視野に入れながら、社会のあらゆる分野で活躍する創造的な人材育成を図るとともに、国際的に卓越した教育研究拠点となり得る取組を積極的に推進する。

【自己評価指標】グローバルCOE申請数・採択数

特別教育研究の充実(CD97)

引き続き、独創的・先導的な研究を推進するとともに、領域を越えた「部局横断的共同研究」や将来の発展が期待できる「萌芽的研究」を奨励する。

【自己評価指標】推奨する分野（部局横断的共同研究、萌芽的研究）の応募実績

専門領域の連携による学際的研究の推進(CD98)

総合大学の特長を活かし、専門領域の連携による学際的研究を引き続き積極的に行う。

コウノトリの野性復帰など兵庫県の特性を踏まえた地域課題に対処する研究の推進(CD99)

兵庫県の地域特性を踏まえ、コウノトリ、恐竜化石、ジオパーク構想等の地域課題や県民のニーズに対処する研究並びに地域再生に資する人材の育成を引き続き積極的に行う。

【自己評価指標】県政課題の解決に向けたプロジェクト等への参画数

「地域ケア開発研究所附属バースセンター（仮称）」の設立の検討(CD100)

看護学部・看護学研究科・地域ケア開発研究所の連携のもと、「地域ケア開発研究所附属バースセンター（仮称）」の設立を検討する。

このセンターにおいては、助産師の役割を活用した安全で安心な出産を普及するため、妊娠から分娩、育児までの一貫した質の高いケアを提供し、助産の看護ケア技術の開発、研究、教育に実践的に取り組む。

総合的な教員評価に基づく研究費の重点配分制度の検討(CD101)

各部局の特性に応じて、中期研究計画書の提出を制度化するなど目指すべき研究課題等を部局ごとに設定し、点検・評価を継続して行うなど研究成果の目標設定と各研究の特性に応じた評価基準に加え、学内委員会への貢献など総合的な教員評価に基づく評価結果を研究費の重点配分に反映する制度を検討する。

【自己評価指標】評価結果を研究費の配分に反映する仕組みの状況

(4) 共同研究の推進と外部研究資金の確保

(基本方向)

客員研究員制度の活用や連携大学院の推進、海外提携大学との研究拠点形成等により、共同研究の推進を行うとともに、競争的研究資金の獲得を図るための戦略的な研究体制の構築や寄附講座の活用、さらには地方自治体との連携等により多様な外部資金を確保する。

(取組方策)

客員研究制度の活用と産学連携による連携大学院の推進(CD102)

外部の研究者との連携など学術交流を奨励し、研究会や学会への参加、学外研究機関との共同研究や客員研究員制度の活用を積極的に進めるとともに、産学連携による連携大学院を推進する。

【自己評価指標】共同研究数・基礎研究の共同研究数(論文と国内外学会発表の共同研究)、客員研究員受入数

提携大学との研究拠点形成等の国際共同研究の積極的な推進(CD103)

海外研究者との情報交換や提携大学との研究拠点形成を図るなど、国際共同研究に積極的に取り組む。

【自己評価指標】在外研究(出張)数、外国人研究者との共著論文数及び外国人研究者との共同による学会発表数

競争的研究資金の獲得を図るための戦略的な研究体制の構築及び公募型研究事業への積極的な申請(CD104)

競争的研究資金の獲得を図るため、各部局又は部局横断的にCOE検討委員会を設置するなど戦略的な研究体制の構築に取り組むとともに、国や民間等の公募型研究事業に積極的に申請する。

科学研究費補助金申請については、平成24年度には申請者率(全専任教員に占める申請者の割合)を各部局において75%以上とすることを目指す。併せて、採択率の向上に努める。

【自己評価指標】科学研究費補助金の申請者率・採択率・獲得額、科学研究費補助金以外の外部資金の獲得件数・獲得額

寄附講座制度の活用による教育・研究の活性化(CD105)

寄附講座制度を活用し、企業等からの奨学寄附金による教育・研究の活性化を図る。

【自己評価指標】寄附講座金額

地方自治体、同窓会等との連携による地域貢献の推進(CD106)

地方自治体、同窓会等との連携を深め、多様な外部資金の獲得を図るとともに、地域に貢献する。

(5)研究支援

(基本方向)

「産学連携センター」が中心となり、研究助成金等の公募情報や企業等の研究ニーズの情報収集を行うとともに、研究活動情報の発信や迅速なアドバイスにより、外部資金の受入れを推進する。また、研究者データベースの活用により、研究者が主体的に共同研究体制の構築等を行う。

(取組方策)

「産学連携センター」が中心となった研究助成金等公募情報等の収集・周知(CD107)

各種研究助成金等の公募情報や企業等の研究ニーズに関する情報等について、「産学連携センター」が中心となり収集し、広く学内に周知する。

【自己評価指標】コーディネーターによる助成金情報提供件数

「産学連携センター」のコーディネーターを中心としたさらなる外部資金の受入の推進 (CD108)

「産学連携センター」のコーディネーターを中心に、本学の研究活動状況を積極的に情報発信するとともに、国等の先導的大型研究プロジェクト申請に当たっての的確、迅速なアドバイスを行うことにより、さらなる外部資金の受入を推進する。

【自己評価指標】コーディネーターによる助成金情報提供件数

研究者データベースの活用による共同研究体制の構築 (CD109)

課題対応型研究など複数の研究者による研究拠点形成を目指す研究において、研究者データベースを積極的に活用し、主体的に共同研究体制を構築するなど、研究者のコーディネート能力の向上を促進する。

【自己評価指標】部局間共同研究の状況

(6) 研究成果の公表と社会への還元

(基本方向)

セミナー、シンポジウム等、様々な媒体を通じて研究成果の公開・発信を行うとともに、研究者データベースの登録者率を100%とする等、研究成果を社会に還元する。

(取組方策)

研究成果の社会還元及び公開・発信 (CD110)

研究成果をセミナー、シンポジウム等を通じて社会に還元するとともに、様々な媒体により公開・発信する。

【自己評価指標】学外における講演・セミナー数、出版物

災害看護教育・研究の成果を発信できる体制の強化 (CD111)

世界的な災害看護拠点形成を図るため、兵庫県内にある国際機関との連携を強め、かつ災害看護教育・研究の成果を発信できる体制を強化する。

「研究者データベース」登録率100%及び内容の充実 (CD112)

学内全研究者の研究業績をホームページを通じて公開する「研究者データベース」の研究者登録率を100%とする。

また、搭載する研究内容を充実するとともに、常に情報を更新するなど、より効果的・効率的に活用できる体制とする。

【自己評価指標】研究者データベース登録率

3 社会貢献の積極的な展開

(1) 地域社会との交流・連携

(基本方向)

大学の知的資源を生かしたシンクタンク機能を発揮するとともに、地域との連携を全学的に促進する「地域連携センター(仮称)」のあり方を検討する。さらに、大学施設や研究室の公開、大学が保有する資料の公開等を通じて地域社会との交流・連携を図る。

(取組方策)

シンクタンク機能の発揮(CD113)

地方自治体や国等の各種審議会・委員会等への委員就任や調査研究受託等によるシンクタンク機能を一層発揮する。また、地方自治体・公益団体・金融機関等と協定を締結し、大学の知的資源を活かして、地域づくりや地域課題の解決を支援する取り組みを一層推進する。

【自己評価指標】連携協定締結件数、受託調査研究の件数、地方自治体や国等の各種審議会・委員会等への委員就任数、地方行政等との共同プロジェクトやプログラムの実施件数

地域連携のための企画・立案、部局間の調整等を行う「地域連携センター(仮称)」のあり方検討(CD114)

地域との交流・連携を全学的に促進し、連携活動の企画・立案、部局間の調整等を行うための全学組織として、「地域連携センター(仮称)」のあり方を平成23年度までに検討する。

地方自治体、産業界、NPO等との間での教員や研究員等の交流推進(CD115)

各キャンパスの特性に応じて、関連する地方自治体、産業界、NPO等との間で教員や研究員等の交流を推進し、これからの地域社会において取り組んでいかなければならないテーマに関する共同プロジェクトやプログラムを広く展開する。

【自己評価指標】教員や研究員の交流件数、教員や研究員が実施した産業界、NPO等との共同プロジェクト、プログラムの実施件数

学術情報館や附置研究所等が保有する資料等の一般公開(CD116)

県民の文化・教養の向上に資するとともに、研究者や専門家に対する情報利用環境の向上を図るため、学術情報館や附置研究所等が保有する資料等の一般公開に努める。

【自己評価指標】利用者数、視察・相談数、学術情報の公開プロジェクト件数

大学施設や研究室の公開(CD117)

県民等の本学に対する理解を深めるため、セミナーや各種イベントその他の様々な機会をとらえて、大学施設や研究室を公開する。

【自己評価指標】施設公開事業の実施状況

県民等との多様な交流機会の創出(CD118)

科学技術その他の専門分野に関心のある県民等との語り合いや健康相談への対応など、県民等との多様な交流機会の創出を図る。

【自己評価指標】関連事業開催件数

学生の課外活動としてのボランティア活動の促進(CD119)

大学教育と社会との連携を推進しつつ、学生の教養・経験を深めるため、ボランティアに関する情報提供や意識啓発等を図り、学生の課外活動としてのボランティア活動を促進する。

【自己評価指標】ボランティア参加者数

大学共同利用施設等を活用した科目提供など高大連携の推進(CD120)

従来実施してきた高等学校との連携を推進しつつ、高校生の進路選択の参考になる科目等を大学共同利用施設(UNITY)等において提供する。

【自己評価指標】高大連携等推進事業(授業科目数)

環境と人間の共生に関する知的資源を発信し、新たな地域連携機能を備えた「環境コミュニティ連携センター(仮称)」の設置(CD121)

環境人間学部が有する環境と人間の共生に関する知的資源を発信し、地域住民・教育機関・NPO・自治体等と、学生・教職員の協働による地域貢献の窓口機能、地域における研究フィールドの開拓・提供機能、新たな地域連携研究手法の開発機能を備えた「環境コミュニティ連携センター(仮称)」を平成22年度に同学部内に設置する。

【自己評価指標】センター設置後の連携実績

(2)生涯学習の支援

(基本方向)

総合大学としてのメリットを生かし、学部間の連携による公開講座の企画等、県民ニーズに応える多様な生涯学習機会を提供するとともに、授業や公開講座等のホームページでの公開についても検討を行う。

(取組方策)

社会人のリカレント教育や高度な教養教育等県民のニーズに応える多様な生涯学習機会の提供(CD122)

「生涯学習交流センター」の企画・調整機能を高めつつ、大学の専門的教育・研究資源を活用し、社会人のリカレント教育や高度な教養教育等県民の多様な生涯学習ニーズに応えるべく、生涯学習コンセプトに基づき、各種公開講座はもとより、他大学等との連携による講座の実施により、より一層、高度で体系的かつ多様な生涯学習機会を提供する。

【自己評価指標】公開講座開催回数・受講者数

各学部等の専門分野が連携融合した公開講座の企画・実施(CD123)

総合大学としてのメリットを生かし、各学部等の専門分野が連携融合した内容の公開講座等を企画・実施していく。

【自己評価指標】各学部等が連携する公開講座数

授業や公開講座等のホームページによる公開(CD124)

情報技術の進展を踏まえ、県立大学の授業や公開講座等について、ホームページに電子情報を掲載する等、公開講座当日以外でも学習できる方法について検討する。

【自己評価指標】ホームページに掲載した資料数

生涯学習事業の質の向上・改善(CD125)

生涯学習事業の展開において、参加者確保の状況、県民等参加者からの満足度など事業の成果を検証し、その質の向上・改善を図る。

【自己評価指標】定員に対する受講者率

(3)地域産業との交流・連携

(基本方向)

大学と産業界の交流を促進するとともに、中小企業の創業・第二創業支援や技術指導等により、研究成果を地域・社会に還元する。また、インキュベーションセンターの活用やニュースパルの整備充実により産業界への支援を行う。

(取組方策)

産学連携センターの企画・調整能力の向上等と産業界との交流推進(CD126)

産学連携センターの企画・調整能力を高めるとともに、各部局における産学連携機能も活用し、大学と産業界との交流を促進し、地域社会に開かれた大学としてその有する研究成果を産業界との共同研究やシンポジウム・セミナー等を通じて地域に還元する。

【自己評価指標】産学交流会の回数

知的財産の適切な保護・管理と活用(CD127)

知的財産ポリシーに基づき、知的財産本部が本学の創出する知的財産を適切に保護・管理する。原則機関帰属とする本学の知的財産については、技術移転機関(TLO)等関係機関と連携しながら、研究成果の移転・実用化を促進するとともに、大学発ベンチャーの立ち上げ等を支援する。

【自己評価指標】機関帰属化した知的財産件数

中小企業の創業・第二創業の支援や専門知識を生かした技術指導(CD128)

経営技術の提案等による中小企業の創業・第二創業の支援や専門知識を生かした技術指導など、各部局の特性に応じて研究成果を地域・社会に還元し、地域の振興と社会の発展に寄与する。

【自己評価指標】産学連携コディネーターが対応した技術指導の件数、各部局において実施した地域産業との共同プロジェクトやプログラムの実施件数

地域産業界からの技術相談等に対する「産学連携センター」の積極的な対応(CD129)

地域産業界からの技術相談等の要請に対して、「産学連携センター」が窓口となり、学内関係部局のほか、公設試験研究機関やNIRO等関係機関との連携を図りながら、積極的に対応する。

【自己評価指標】産学連携コディネーターが対応した技術相談件数

インキュベーションセンター等の活用による次世代産業の育成支援(CD130)

インキュベーションセンター等を活用して、産業界からのニーズに対応した共同研究等を推進し、その研究成果を産業界に積極的に移転することにより、次世代産業の育成を支援するとともに、大学発ベンチャー創出のための環境を整備する。

【自己評価指標】インキュベーションセンター利用状況、ベンチャー起業件数

ニュースバル産業用分析ビームラインを活用したものづくり産業基盤の支援(CD131)

ニュースバル産業用分析ビームラインを活用して、ものづくり産業の基盤を支える分析企業や材料産業界の技術開発を促進する。

【自己評価指標】ニュースバル産業用分析ビームラインBL-5の産業利用実績

ニュースバルの整備充実と利用環境の整備(CD132)

本学独自の高度研究資源を地域に還元し、微細加工技術のほか分析・材料評価等の産業利用技術の高度化に資するため、ニュースバルの整備充実とともに、利用環境の整備を図る。

【自己評価指標】ニュースバルの民間利用状況

(4) 国際交流の推進

(基本方向)

協定交流大学との連携推進、HUMAPの有効活用、国際関係機関との連携強化等を通じて、学術・教員・学生交流及び留学生の受入等を一層推進するとともに、国際貢献、国際協力を促進する。

(取組方策)

学術・教員・学生交流及び留学生の受入等の一層の推進(CD133)

「国際交流センター」は各部局と連携し、ホームページ等により内外に情報を発信するとともに、国際的な学術・教員・学生交流及び留学生の受入等を促進することにより、より一層大学の国際化を推進する。

【自己評価指標】留学生の状況

海外大学等との学術交流協定やHUMAPの有効活用による共同研究や国際学術集会の開催(CD134)

海外大学等との学術交流協定やHUMAP(兵庫・アジア太平洋大学間交流ネットワーク)を有効に活用し、学生・研究者交流や共同研究を推進するとともに、国際セミナーその他の国際学術集会等を開催する。(大学コンソーシアムと連携した海外インターンシップの実施など)

【自己評価指標】海外大学との学術交流協定数、国際セミナー等開催回数

協定交流大学との連携推進(CD135)

学術交流協定を締結している海外大学(協定交流大学)等との連携等を推進し、交流事業の多様化と充実を図る。

【自己評価指標】国際交流事業等件数

兵庫県に集積する国際関係機関との連携強化(CD136)

兵庫県に集積する国際関係機関（国際協力機構（JICA）兵庫国際センター、WHO神戸センター、国際エメックスセンター等）との連携を深め、本学の知的資源を生かして国際貢献に寄与する。

【自己評価指標】国際関係機関との連携状況

先駆的・独創的研究成果を基礎とする学術的国際交流の推進(CD137)

本学で得られた先駆的・独創的研究成果を基礎とする学術的国際交流を推進する。

【自己評価指標】国際会議・国際学会等における発表及び海外の大学等における講義・講演数、国際共同プロジェクト数

海外でのリエゾンオフィス機能の強化(CD138)

海外大学等との学術交流協定締結の促進、学生交流の支援、研究成果の情報発信等を行うため、(財)兵庫県国際交流協会の協力を得ながら、海外でのリエゾンオフィス機能の強化を図る。

【自己評価指標】海外大学との学術交流協定数

県内外の国際関係機関との連携による国際協力の推進(CD139)

各部署の特性と大学の総合力を活かした国際協力への参加を促進するため、県内外の国際関係機関との連携を図り、国際協力を推進する。

留学生住宅機関補償システム等の活用による受入留学生の宿舎確保(CD140)

国際的な研究・教育体制の充実のため、外国人研究者及び留学生の継続的な宿舎確保を進める。

【自己評価指標】外国人研究者等の宿舎状況、留学生住宅機関補償システム活用状況

国際交流相談員による学生支援及び日本語能力向上のための支援等(CD141)

受入留学生が生活習慣等の違いを克服し、快適で充実した学生生活を送れるよう、国際交流相談員を配置し、様々な生活相談に対応するなど柔軟できめ細やかな学生支援を行うとともに、日本語能力向上のための支援、研究能力向上のための支援を行う。

【自己評価指標】国際交流相談員相談件数

帰国外国人留学生や研究者に関するデータベースの構築検討(CD142)

国際的な人的ネットワークの形成を図り、長期的な国際交流・国際貢献に資するため、帰国外国人留学生や研究者に関するデータベースの構築を検討する。

4 自主的・自律的な管理運営体制の確立

(1) 戦略的・機動的な大学運営の推進

(基本方向)

学長のリーダーシップの下、円滑な学内合意形成、迅速・効果的な事業推進を図るとともに、社会の意見を大学運営に反映させるなど、戦略的・機動的な大学運営を推進する。

また、各部署の個性・特色の明確化と広報の充実等により、大学知名度の向上及び総合大学としての一体感の醸成等を促進する。

(取組方策)

学長のリーダーシップの下、学長副学長会議での大学運営の基本方針の検討(CD143)

学長のリーダーシップの下で、戦略的な大学運営を行うため、副学長がそれぞれ「教育」「研究」「社会貢献」を担当し、全学委員会委員長及び各センター長を兼務するとともに、学長副学長会議において大学運営に係る基本方針を検討する。

【自己評価指標】学長副学長会議審議事項数

学長の指示による全学的な特定課題を処理する学長特別補佐の設置(CD144)

学長の指示に基づき、全学的な特定課題を処理する学長特別補佐を必要に応じて設置し、機動的かつ円滑な大学運営に努める。

【自己評価指標】学長特別補佐設置状況

運営協議会やマスコミ懇談会を通じた社会の意見の大学運営への反映(CD145)

学外有識者を構成員に含む「運営協議会」に加え、マスコミ等との懇談会を開催するなど、引き続き、社会の意見を大学運営に反映するとともに、戦略的かつ円滑な意思形成を図る。

【自己評価指標】運営協議会等の開催回数

「部局長会議」や各種全学委員会等を通じた学内合意形成を円滑化(CD146)

「評議会」議案の事前調整や学長の諮問事項の協議を行う「部局長会議」や各種全学委員会等を通じて、学内合意形成を円滑化し、全学的な取組を迅速かつ効果的に推進する。

新設統廃合を含めた全学委員会のあり方の見直しと柔軟で機動的な運用(CD147)

全学的課題について審議・調整する「全学委員会」について、各委員会運営状況を踏まえ、新設又は統廃合を含めて順次そのあり方を見直すとともに、委員会機能を充分発揮できるように柔軟で機動的な運用に努める。

【自己評価指標】全学委員会数・委員会開催回数

学生部及び各センターの体制・機能強化(CD148)

学部横断的な取組を必要とする教育改革、総合教育、学生支援、学術情報管理、生涯学習、産学連携及び国際交流を積極的に展開するため、「教育開発センター」、「総合教育センター」、「学生部」、「学術総合情報センター」、「生涯学習交流センター」、「産学連携センター」及び「国際交流センター」において、それぞれその企画立案と総合的推進を図るとともに、その体制・機能の強化を図る。

各副センター長、学生副部長の補佐機能による円滑な業務運営(CD149)

教育開発センター、総合教育センター及び学生部にあっては、キャンパスが広く分散していること、1年生の全学共通教育を東西2キャンパスで行うことから、東西地区それぞれに置く副センター長又は学生副部長がセンター長又は学生部長を補佐し、円滑な業務運営を行う。

【自己評価指標】副センター長及び学生副部長が参画する委員会開催数

部局長の補佐体制の整備と部局長を中心とした部局運営(CD150)

全学的な運営方針を踏まえつつ、各部局の機動的な運営を推進するため、部局内委員会の役割の明確化、事務職員の企画立案への参画など部局長の補佐体制の整備を図り、部局長を中心とした部局運営を行う。

社会ニーズ等に対応した展開を図るための人員・予算配分の仕組みの検討(CD151)

新たな時代潮流や社会ニーズ等に対応した教育・研究・社会貢献等の展開を図るため、学内の人員、予算の重点的、効果的な配分を行う仕組みを検討する。

姫路工業大学の責任ある執行体制の維持(CD152)

姫路工業大学が併存する間の部局長は、兵庫県立大学の関係部局長等が兼ね、その学生が在籍する間、責任ある執行体制を維持する。

また、閉学の際には当該部局教授会による廃止決定、及び文部科学省に対する「廃止認可申請」を遅滞なく行う。

他の大学法人の成果課題等の検証と県立大学運営への反映(CD153)

県立大学の組織・財政・活動状況の自己点検・評価に併せ、国立大学法人・公立大学法人の運営状況を調査し、法人化の成果と課題等を検証するとともに、県立大学の運営に反映させる。

【自己評価指標】本学の運営に取り入れている国立大学法人等の取組

個性・特色の明確化と広報の充実による大学知名度の向上(CD154)

各部局等の歴史や伝統を踏まえ、教育・研究上の特色化、社会貢献活動の活性化等により、その個性・特長の明確化を図るとともに、「広報の方策」を毎年度見直して充実を図り、さらなる知名度向上と浸透を図る。

【自己評価指標】兵庫県立大学の知名度

「兵庫県立大学名誉教授会」の運営(CD155)

本学の名誉教授のほか、神戸商科大学、姫路工業大学及び兵庫県立看護大学の名誉教授を会員とする「兵庫県立大学名誉教授会」を運営する。

【自己評価指標】名誉教授会会員数

学内における交流機会・情報提供の推進と学報のさらなる充実(CD156)

総合大学としての一体感の醸成や分散するキャンパス間の相互理解と情報交流を促進するため、全学的会議や研究発表会を開催する等、学内交流機会・情報の提供に努めるとともに、学報の編集方法を工夫するなど、広報誌のさらなる充実を検討する。

【自己評価指標】キャンパス別の全学会議の開催回数

後援会・同窓会会員への情報提供と交流の促進(CD157)

後援会及び同窓会に対して、大学における教育研究の活動状況を定期的に情報提供するとともに、大学幹部と後援会・同窓会会員との親睦と交流の促進を図る。

【自己評価指標】後援会等との交流事業回数

(2) 教育研究環境の整備

(基本方向)

教育環境の充実を図るため、施設・設備の整備について、耐震改修等にも配慮した中長期的な視点に立った検討を行うとともに、「学術総合情報センター」を中心とした情報ネットワーク運用体制の整備を図る。また、セクシャル・ハラスメント等の意識向上と防止に努める。

(取組方策)

耐震改修やバリアフリー化にも配慮した施設・設備の計画的な整備(CD158)

教育研究環境の改善・充実を図るため、施設・設備の整備について中長期的な視点に立った検討を行い、耐震改修やバリアフリー化にも配慮した施設・設備の更新など施設・設備の計画的な整備に努める。

【自己評価指標】耐震改修面積、施設整備面積、設備更新状況

「学術総合情報センター」を中心とした情報ネットワーク運用体制の整備(CD159)

「学術総合情報センター」を中心として、人的支援体制の充実も含めた情報ネットワーク運用体制の整備を図るとともに、ネットワーク環境、情報処理環境及びマルチメディア環境の充実に努める。

【自己評価指標】学生1人当たりPC設置台数

「機関リポジトリ」に係る情報収集、調査等(CD160)

大学が有する教育研究成果等に係る知的生産物を電子的形態で集積・保存し、自ら発信する電子アーカイブシステム「機関リポジトリ」に係る情報収集、調査等を行う。

情報セキュリティポリシーの全学的周知徹底(CD161)

情報セキュリティを確保するため、情報セキュリティポリシー等に基づき、学生及び教職員の意識啓発を進め、全学への徹底を図る。

【自己評価指標】研修会等の実施状況(開催回数、参加者数)

シンポジウム、講演会等への遠隔授業システムの積極的な活用(CD162)

学術総合情報センターによる技術的支援の下に、シンポジウム、講演会等に遠隔授業システムを積極的に活用する。

【自己評価指標】各種会議での遠隔授業システム利用回数

施設・設備の有効活用を図るための利用者への案内・周知(CD163)

施設・設備の有効活用を図るため、施設等の運用方針又は利用手引き等を整備するとともに、学外利用者への案内・周知を行う。

安全な環境の維持とキャンパスの美化(CD164)

省エネや緑化など環境保全に積極的に取り組み、安全な環境の維持とキャンパスの美化を進

める。

【自己評価指標】光熱水費の執行状況、緑化事業費額

危機管理体制の強化 (CD165)

全学及び各キャンパスの危機管理体制を強化し、緊急時の対応マニュアルの作成、防災訓練の実施等を計画的に行うとともに、災害や学生生活における様々な事件・事故など緊急時には、関係組織間で連携し、必要な情報(感染症の発生状況等)の提供その他の迅速かつ的確な対応を行う。

【自己評価指標】防災訓練等の実施状況

セクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメント等の意識向上と防止 (CD166)
学生及び教職員のセクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメント等に関する意識を高め、その防止に努めるとともに、相談員等の解決機能の充実を図る。

【自己評価指標】ハラスメント対応相談員等の配置状況、研修会の回数

共同研究における間接経費制度の検討 (CD167)

研究環境の改善や大学全体の研究機能強化に繋げるため、共同研究においても企業が負担する研究費の一定割合を大学に間接経費として納付することの制度化を検討する。

(3) 柔軟で多様な教員人事制度の構築

(基本方向)

教員採用における公募、任期制適用教員の範囲拡大の検討等を行うとともに、教育活動に関する定期的な評価や教員評価を踏まえた柔軟な処遇のあり方の検討等、柔軟で多様な教員人事制度を構築する。

また、女性研究者の積極的な登用など男女共同参画を推進する。

(取組方策)

教員採用の「公募」の原則 (CD168)

教員採用にあたっては、優秀な専任教員を確保するため「公募」を原則とし、適格者を広く国内外から求める。

【自己評価指標】全採用教員数及び公募による採用者数

任期制教員の範囲拡大の検討 (CD169)

社会の変化に即応した教育・研究が柔軟に継続できる体制を確保するため、新規採用の全ての助教及び助手並びに一部の研究科、附置研究所の教員に導入した「任期制」を適切に運用するとともに、部局の特性に応じた任期制適用教員の範囲の拡大を検討する。

【自己評価指標】任期制適用教員数

教員の採用基準及び昇格基準の明確化及び適切な運用 (CD170)

教員の採用及び昇格等を適切に行うため、教員の採用基準及び昇格基準を明確にし、その運用に当たっては、学士課程における教育上の指導能力や大学院課程における教育研究上の指導

能力等の評価を考慮するなど、適切な運用を行う。

教員の教育活動に関する定期的な評価(CD171)

学生による授業評価や教員の自己評価等を参考に教員の教育活動に関する定期的な評価を行うとともに、その結果を踏まえ、必要な改善を図る。

教員評価を踏まえた柔軟な処遇のあり方検討(CD172)

教員の教育・研究・社会貢献・学内業務等の活動に対して、その多様性に配慮した評価結果を踏まえた柔軟な処遇のあり方について検討する。

教員の一定数を大学全体で運用する制度や教員の再配置のあり方等の検討(CD173)

教育・研究・社会貢献等いずれかを重点的に取り組む教員配置制度や新しい学問分野等に対応し、教員の一定数を大学全体で運用する制度や教員の再配置のあり方等について検討する。

学外の人材を活用した人事交流の促進(CD174)

学外の人材を活用し、教育・研究の活性化を図るため、国内外研究機関、民間企業等から非常勤講師を採用するなど、人事交流の促進を図る。

【自己評価指標】出身団体別の非常勤講師任用状況、出身団体別の客員教員任用状況

女性研究者の積極的な登用(CD175)

多様で優れた研究者の活躍を促進するため、女性研究者の候補を広く求めるとともに、組織の意思決定過程への積極的な登用に努める。

【自己評価指標】女性教員比率

男女共同参画の推進(CD176)

「第3次男女共同参画兵庫県率先行動計画 - ひょうごアクション8 - 」の趣旨を踏まえ、本学においても教職員一人ひとりが能力を發揮できる職場環境づくりを実践し、男女共同参画推進の地域の核となるよう努める。

【自己評価指標】女性教職員比率

(4) 事務組織の機能強化と業務の効率化

(基本方向)

教員組織と事務組織が両輪となった円滑な大学運営の推進を図るとともに、学外専門家の活用、外部委託等による効率的な事務執行を行う。また、環境率先行動計画に基づき省エネ・ペーパーレス化を推進する。

(取組方策)

教員組織と事務組織が両輪となった円滑な大学運営の推進(CD177)

事務組織を事務局長の指揮下で一元化し、事務職員の各種委員会への参画など、教員組織と事務組織が両輪となり、円滑な大学運営の推進を図る。

【自己評価指標】事務職員が構成員を務める全学委員会の状況

事務組織に関する柔軟な組織編成及び人員配置(CD178)

事務の円滑化・効率化を図り、機動的な大学運営に資するため、事務組織に関する自己点検・評価を実施し、本部事務局とキャンパス事務部の業務分担等を見直すとともに、柔軟な組織編成及び人員配置を図る。

学外の専門家（知的財産・法人化関連等）等の活用(CD179)

高度な専門性を必要とする事務については、学外の専門家（知的財産・法人化関連等）等の活用を図る。

【自己評価指標】外部専門家への委託状況

外部委託等による効率的な事務執行(CD180)

情報化の推進、定型業務の集約化、効果的な外部委託などの具体化を図り、効率的な事務執行に努める。

【自己評価指標】大学維持管理費の決算額

省エネ・ペーパーレス化の推進(CD181)

環境率先行動計画に基づき、昼休みの消灯、トイレ未使用時の消灯、事務の電子化やペーパーレス化を図るとともに、会議の資料等については、両面複写化を徹底し、コピー用紙発注量を削減し、平成22年度末には20年度比7%の削減を図るとともに、24年度末には20年度比10%の削減を図る。

【自己評価指標】紙-用紙発注量、光熱水費

積極的な遠隔会議システムの活用(CD182)

全学委員会や事務部長会議その他の会議に、積極的に遠隔会議システムを活用し、効率的・合理的な運営に努める。

(5)点検・評価と情報公開

(基本方向)

中期計画の評価、認証評価及び兵庫県立大学評価委員会の評価への適切な対応を行うとともに、PDCAサイクルを確立する。また、ホームページ（外国語表示を含む）や記者発表による積極的な情報発信を行う。

(取組方策)

中期計画の評価や認証評価への適切な対応及びPDCAサイクルの確立(CD183)

全学及び各部署の自己評価委員会が連携し、中期計画に係る評価や認証評価への適切な対応を行うとともに、その評価結果を大学運営に生かすPDCAサイクルを確立する。

兵庫県立大学評価委員会の評価を反映した大学の質の向上(CD184)

兵庫県立大学評価委員会による評価を受け、評価の結果を大学の業務運営に反映させるとともに、評価結果等の公表を通じて大学の質の向上に生かす。

「広報の方策」に基づく全学的な広報活動の更なる強化(CD185)

広報委員会で作成した「広報の方策」に基づき、ワーキンググループで機動的に課題解決に当たるなど、広報体制を確立し全学的な広報活動の更なる強化を推進する。

ホームページや積極的な記者発表による広報の充実(CD186)

県民に支えられる大学として県民や社会への説明責任を果たし、地域社会からの理解を得るために、教育・研究・社会貢献その他の活動状況について、ホームページや学報等により情報を随時公開・提供するとともに、マスコミとの懇談会の開催や、より積極的な記者発表など、広報活動のさらなる充実を図る。

【自己評価指標】記者発表（資料配付）件数

外国語ホームページの拡充等海外への情報発信(CD187)

外国語ホームページを拡充するなど、海外に対しても大学の情報を積極的に発信するとともに、大学ホームページ全体の充実を図る。

【自己評価指標】ホームページ更新 HTML 数

各部局ビジョンの進行管理及び点検評価(CD188)

各部局等は、それぞれのビジョンを実現するため、具体的な推進方策を策定するとともに、部局長等が責任を持って、その推進状況の管理及び自己点検・評価を行う。

【自己評価指標】各部局ビジョンに係る自己点検・評価の状況